

妙見祭獅子組のヒミツ

現在、妙見祭に出ている獅子舞は、獅子組の人たちによって300年以上にわたって受け継がれてきました。ここでは、現存する資料から、獅子組がどのようにして運営されてきたかを紹介します。

1 獅子舞はいつ始まったの？

獅子舞の創始者である井櫻屋勘七の子儀右衛門から惣別当善十郎を通して町奉行の本嶋次左衛門と角田九兵衛に獅子舞の由来などについて報告したものです。

それによると、井櫻屋勘七は、商売で行き来していた長崎の諏訪神社の祭礼(長崎くんち)に出ていた羅漢獅子を見て、その楽器の調子がとても珍しくて興味深かったのがそもそものきっかけでした。しかし、当時は経済的な余裕がなく、すぐには取りかかることができませんでしたが、勘七はあきらめることができずに21歳の秋に長崎に行き、太鼓の打ち方などを習いました。特にチャルメラは、「ちゃんめら伊兵衛」と呼ばれる名人について稽古しました。

羅漢獅子の振りはとても難しかったので簡単にして、細工町の長府屋兵左衛門に協力してもらって若者や子供に教えました。このような努力の末、妙見祭に初めて出たのが元禄4年でした。今から約320年前のことです。

それ以前は籠獅子と呼ばれる獅子2正に笛・太鼓の囃子がついたものだったということですから、新しい獅子舞を初めて見た人々はさぞ驚いたことでしょう。

その後、勘七一人で維持していくのは大変だろうという松井寿之公の計らいにより、獅子舞は八代町全体の寄附で賄われるようになりました。



2 どんな人たちが参加しているの？

獅子組の取りまとめをするリーダーを「頭取」と呼び、獅子組の中で経験を積んだ人が選ばれます。写真の帳面は、頭取不在によって喧嘩沙汰などが起こるようになったため、6人の新しい頭取を任命することになり、それにあたって獅子組の人たちが守るべき心得を書き記したものです。

その心得とは・・・

- 1 大酒など飲まず、口論がましきこともしないこと
- 2 獅子に入る者は両祭礼(浅井神社と八代神社の祭礼)の時に派手な服装をしないこと
- 3 参詣の人に紛れてしまうので羽織は着用しないこと
- 4 新入りは人柄を吟味して入れること
- 5 頭取の言うことは聞くように、そうでなければ脱退させる
- 6 何事も井櫻屋に相談すること
- 7 新入りや脱退の際は報告し、他の町からの新入りは控えるように というものでした。

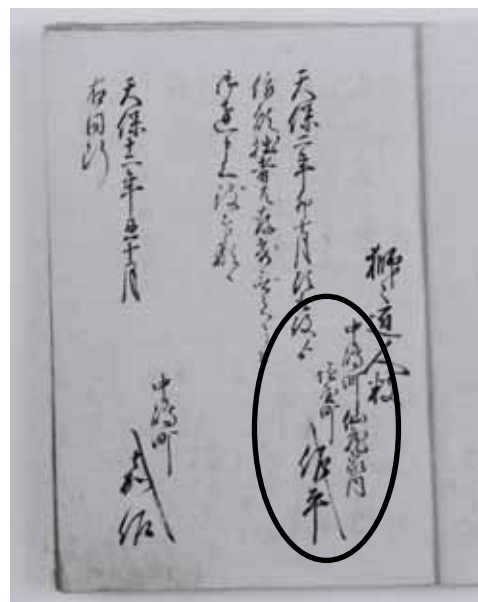


それに続けて中島町の別当・丁頭・横目という役人の名前、頭取の名前と享和3年時点での獅子組員の名前が記されています。そして、その後の人員の異動も慶応3年まで書き継がれています。

『獅子組人数根帳』

(享和3年～慶応3年)

『獅子組人数根帳』の続いて書かれた『獅子組人数改帳』では、獅子組員は、中嶋町以外の人には「中嶋町仙蔵家内 塩屋町 作平」というように表向きは中嶋町の住人であるように記述されています。このようにしたのは、享和3年の「新入りや脱退の際は報告し、他の町からの新入りは控えるように」という心得が元になっていると思われます。



3 獅子の中に入る人はどうやって決めるの？



浅井神社(11月15日)と八代神社(11月23日)の例祭の時にどこで誰が獅子の中に入るかを書いた帳面です。毎年雄獅子と雌獅子各1冊ずつ作られ、獅子組には明治2年からの帳面が残っています。

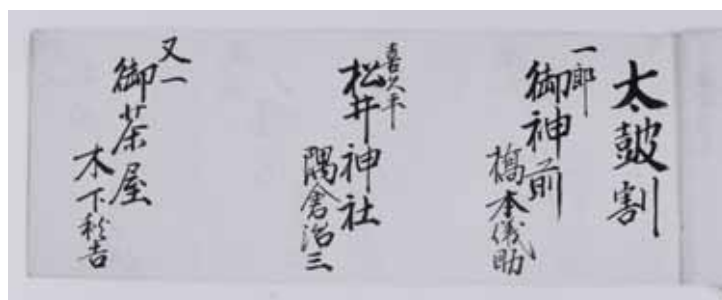
役割を決めるのはリーダーである頭取です。獅子組では、年齢に関係なく一日でも先に入った人が先輩になるという決まりがあるため、それぞれの経験を考慮して割り振りを考えていきます。

「獅子組帳面」平成元年(1989)

4 お祭りの時はどんな所で獅子舞をしたの？

明治44年の11月15日の浅井神社(旧八王社)と、18日の八代神社(旧妙見宮)の例祭の時の太鼓と玉振りの割り振りを記した帳面です。

太鼓15名と玉振り5名の名前、その後に獅子舞の場所と担当者名が記されています。



この年獅子舞が舞われた場所は、

「獅子楽人数繰出」 明治44年(1911)

15日： 御神前(浅井神社)、 松井神社、 御茶屋(松浜軒)、 八幡宮(塩屋八幡宮)、 妙見社(元細工町、今の本町三丁目にあった)、 玉振舞上(玉振を卒業する子供の家と思われる)、 町役場、 警察署、 郡役所、 宮の町(妙見社がある)、 袋小路

18日： 御神前(八代神社)、 棧敷、 砥崎、 中宮、 袋町、 御茶屋、 松井神社、 札之辻
これら舞う場所の中で、太鼓と玉振それぞれのベテランが勤めているのは、15日の御神前(浅井神社)と、
18日の御神前(八代神社)・御茶屋(松濱軒)で、獅子組にとって重要な場所であったことがうかがえます。

棧敷：江戸時代、八代神社西側に設置され、藩主の名代や、警固の御城附衆らがそこから祭り見物
をしていました。現在、八代神社と宮地小学校の間で獅子舞が行われているのは、棧敷前で舞って
いた名残と思われます。



明治2年の「獅子組帳面」です。明治2年は、松井氏がまだ八代城を預かっていた頃で、獅子組では、まだ江戸時代の時と同様に行動していたことがうかがえます。

翌年になると松井氏が松濱軒に移り、獅子舞の場所も「御城」から「御茶屋(松濱軒)」に変わっています。

5 道具を新しく作るのにお金がたくさんかったんじゃないかな？

獅子舞の衣裳や楽器は、使っている間に古くなったり壊れたりします。修理や新調の際は、八代町を始めとする人々の寄附を募りました。また、獅子組に縁のある人が新しい道具や衣裳を寄附することもありました。

